

## びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会 第1回会議 議事要旨

### 1. 開催日時および場所

令和4年6月30日(木) 10:00～  
滋賀県立図書館大会議室

### 2. 議事要旨

(1)開会あいさつ 滋賀県総合企画部 平岩理事

(2)議事

議事進行に先立ち、村上委員を委員長に選出した。  
議事進行は、委員長により行われた。

① 議事(1)現行ビジョンについて

事務局より、資料に基づいて説明を行った。

【村上委員長】

次第の(1)に関して、現行の将来ビジョン策定当時から現在までの流れ、また、現在何が起きているかということも含めて、説明しました。また、もう少し広い俯瞰的な視点から、この10年間の社会やその時代背景、取り巻く状況の変化についても情報収集し、振り返りもいたしました。これらは、今後の将来ビジョンのあり方に向けて、どうということを考えていかなければならないかということの材料になるかと思います。

中にはもうこんなに時間が経ってしまったのかとか、実は現行の将来ビジョンの策定当時が東日本大震災の直後で、国内が全体で防災や復興といったことに関わり意識が集中していた時期、こういった時期に前回の将来ビジョンは策定されたということも改めて認識したところです。後ほど、(2)検討の進め方について、資料の6を説明した後に、今日は初回ということで、皆様いろいろと現場で思いをお持ちだと思しますので、お一人ずつぜひご発言いただきたいと思っています。

(1)のこれまでの振り返りに関して、あるいは現在何が起きているのかという資料説明の中で、御質問や御意見等がありましたらお願いします。いかがでしょうか？

【岡井委員】

今回将来ビジョンを新たに策定するという事なので、前回策定をした結果、課題を発見し、こういうビジョンにしていきたいと思いますという目標を定めて、そのために協議会を設置し、あとワーキンググループですか、そういったものも設置してビジョンの実現に向けて様々な取組をされたと思うのですが、具体的にどういった取組をして、例えばこううまくいった、うまくいかなかったことを教えていただければと思います。前回のビジョンの評

価値になるかと思えます。そうしないとなんとなくビジョン作った方がいいけれども、結局実現しないまま終わってしまった。また同じ課題が引き続き言われていますということなら、前回のビジョンを作った結果、何が改善されたのかわからないので、その辺り教えていただけますでしょうか？

**【村上委員長】**

協議会あるいはワーキングでの取組、その後、特に成果が得られたこと、あるいは成果が得られなかったことについて説明をお願いします。

**【事務局(間柴)】**

ビジョン策定をして施設連携協議会ができたことにより、それぞれの施設や機関が何をしているかという部分での情報共有の場ができています。その中で、イベント等の共同開催であったり、施設の融通であったりとか、そういったプラスの面というものはあったかと思えます。立地施設が一団となって何かをしていこうという契機も生まれたので、シンボルマークも作られたし、そういった点ではプラスの面はあったと思えます。

ただ、課題の方でも挙がっているのですが、まだできてない部分は多々あります。施設間の連携ということ謳ってはいるのですが、それぞれの施設が、例えば医療福祉関係の集まりであれば、もうその中で完結してしまうとか、公園付近で図書館、美術館、公園さんは連携してイベントの共催もされているのですが、それ以外、例えば大学との関係であるとか、それぞれのクラスター、集まり同士の連携というところでは、まだ不十分ではないかと思えます。

**【村上委員長】**

資料を準備いただいたのですが、確かに岡井さんが今御指摘いただいたこと、これまでの10年間で振り返って、何ができて何ができなかったか、それを1枚のシートに分りやすくまとめていただくという作業はもしかしたら必要なのかもしれない。

このあたり、実は今日の資料を丁寧に読んでいって、各自が抜き出していくと、実は分る仕組みになっているのかもしれないですが、ちょっと分りにくい。

**【事務局(松田)】**

確かにおっしゃるとおり。

**【村上委員長】**

まさに御指摘のとおり、施設連絡協議会を作り、ワーキングで取り組んでこられたわけですが、その中でこのパーク PFI といったような新たな試みはおそらくできたことの一つかと思うのですが、こういう出来たこととできなかったことを、資料2の5つの将来像のそれぞれについて、下に短期長期の取組というのが書いてあるこの枠に具体的に何ができたかということと、それから、特に資料5の4ページ5ページに、まだ連絡協議会の認識

としては、交通アクセス、PR 情報発信施設の整備、繋がりが不十分、これらについては足りないという問題意識を持っておられるので、足りないというところは、何がどう具体的にできなかったから足りなかったのか、足りないということなのかも含めて、整理していただくとういかに思います。

**【築地委員】**

今の委員長の御提案といいましょうか、これはもう当然だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います、賛成します。

それに関連する質問ですが、このビジョンを策定した段階で、それをチェックする仕組みというのは導入されていなかったという理解でよいですか。

**【村上委員長】**

進行管理をするという仕組みですね。

これはおそらく協議会の機能ということでしょうか。

**【事務局(松田)】**

進行管理という観点で、施設連携協議会で資料の5-2に上げているように、こういうことをやりましたよねという俯瞰することをやっています、こういうことができましたというのを集めているのが実態です。

委員ご指摘のように、それが成果としてどう結びついて何が足りないのかというのが確かに十分ではなかったところがあると思っています。

**【築地委員】**

もうそこは反省して、これから必要であれば作ればよいと思います。

そのためにも、もう一つ確認したいのは、この将来ビジョンを平成24年に掲げたわけですが、このビジョンに基づいて目的を共有したり目標を設定したりというプロセスもなかったという理解でよいでしょうか？それは作られなかったという理解でよいでしょうか？

ビジョンを掲げ、それに基づいて関係するところが、もう何のためなのかっていうことを共有したり、それからそれに向けてどういうプランで作っていかうかってことを考えたりという動きはなかったという理解でよいですか？

**【事務局(松田)】**

それぞれの施設、このエリアの施設の取組状況を、お互いで共有している、確かにそこで止まっている部分があったと、反省を込めて思っています。

**【築地委員】**

その事実が確認できていれば、まずはいいかと思います。

やはりこの10年間を振り返って、未来を議論するためにも、これまでの五つの将来像について、それぞれ短期長期の取組を定めていましたので、それらがどこまでできたのか、できなかったことは、どこができなかったのかというのを、総括していただくことは、今回の将来像の改定の前段として、やはり必要な部分になってきますので、ぜひ次回の会議までには共有できるようにお願いできますでしょうか？

**【事務局(松田)】**

わかりました。事務局で作成したいと思います。

**【岡井委員】**

可能であれば、前回のビジョンのときにまとめられた課題が、例えばアクセス上の課題とか、バリアフリー、安全性とか、サービス施設の不足とか、五つ出ているかと思いますが、それに対して、どういう検討をされて、どういうことが実施できたのかという辺りまでまとめていただけるとありがたいと思います。

**【事務局(松田)】**

結果だけではなく、結果でなくてもどういう議論があったのか、そのプロセスもわかるように取りまとめて、次回の委員会までにお示ししたいと思います。

**【村上委員長】**

これはよくあることですが、この上位計画があって実施計画があって、実施計画を進めていくとうまくいかないことにぶち当たって、よく考えると上位計画がその障害になっているケースもあります。今回の岡井委員さんが御提案いただいた、このまとめること、それによってなぜできなかったのかを振り返ると、実はこの五つの将来像で何かが欠けたのではないかとか、実はこの将来像がちょっと違うように解釈されるとか。

今の時代にそぐわなかったとか、もし見えてくれば、次回以降この将来ビジョンの改定に対して、非常に具体的で明確な議論ができるかもしれません。

なぜできなかったのかも含めて、課題も含めてぜひおまとめをお願いします。

**【仲川委員】**

瀬田東学区の仲川と申します。

先日龍谷大学の先生とお話をさせていただきました。その方が私も会議に1回出席しましたということをおられました。この会議なのかまた違う会議なのかはわかりませんが、そのときに岡井委員さんも言われたように、その結果が返ってこなかったということをおられました。ガス抜きをするための会議ではなく、しっかりと出た話については結果を返していく。トライアンドエラーは必ずありますので、やった、やったけど失敗した、あるいはこれはうまくいったということ。重ねてですが、ガス抜きだけの会議にならないようにしてほしいです。

びわこ文化公園都市のこのバスですか、パスですか、ありますね(⇒バスモニターWebアンケートの件、事務局注)、これについての結果は何か出ていますか。

**【事務局(松田)】**

6月11日から毎週土曜日に帝産バスとタイアップして、瀬田駅にあります帝産バスの案内所で瀬田エリアの1日フリーパスを配布して、利用者にモニターになってもらう。これまでの議論で課題として挙げていたのが、あくまで施設側からの課題ということだったので、その利用者の視線で意見を聞いておこうということで、6月11日から毎週土曜日に、次が4回目の土曜日になるので、今まで3日間の配布になっています。配布枚数で言うと、今のところ天候が悪い日が続きましたので、概ね一日あたり15枚程度に留まっているところです。

予定としては、12月の大晦日の前の週の土曜日まで、毎週土曜日に配布して利用者目線で、しかもバスという普段このエリアに来るのに使わないだろうと思われる手段、そこを掘り起こしながら、その目線での意見を集めていこうということで、進めています。今後の予定としては、2回目の委員会の際に、中間報告ができるように準備しようと思っているところです。

**【仲川委員】**

バスの路線構造から、瀬田駅からどこまでという形になり、施設間の横断的な使われ方というのはおそらくできないような状況だと思います。1日15件程度ということで、どこからどこまで乗ったということはそのアンケートで分りますか。

**【事務局(松田)】**

バスの実際どこからどこまで乗車したというのは、データとしては取れない仕組みになっています。逆に、この施設、図書館行きましたとか、美術館行きましたとか、龍谷大学行きましたというのは、アンケートで訪問施設を答えるようになっていますので、目的地は把握できるような仕組みになっています。

**【仲川委員】**

公共のバスを使う場合に、横断的な、その施設の横断的な使われ方を考えていかないと、ただ単に私は瀬田駅から医大の病院行きたいという人の使い方を調べても、これはあまり意味のないことなので、しっかりとその横断的に使われるようなことを模索していただきたい。

**【清水委員】**

びわこ文化公園都市という形で元々発足したのが昭和54年、昭和56年にこれを計画されて、そしてその後、順次整備してきたと思いますが、24年8月でビジョンを策定されて、ちょうど10年というような形の中で見直しということでございます。

岡井先生や委員長も言っていたように、内容が大きすぎて、どれをどうまとめていくのかと。私達は9月と12月の2回ぐらいの参加しか計画はなかったですが、まとまるのかなという心配もございます。

今の目的、検討委員会の要綱という中での目的として、策定から10年経過することやびわこ文化公園都市を取り巻く状況が変化しつつあることを踏まえて見直しを検討することですが、施設連携協議会はこの10年間で何回開催されているか教えてください。

#### 【事務局(松田)】

施設連携協議会につきましては、概ね年2回程度開催、それ以外にワーキンググループと言いまして、特に不特定多数の方を対象にしている施設を集めまして、それを年に数回程度開催している状況です。

#### 【村上委員長】

10年前に策定されて、その中でのいろんなことが出てきて、そしてそのような状況から将来ビジョン検討委員会を設置して、そこでもう一つ御意見を賜りたいというようなことだと思います。

#### 【清水委員】

草津市でも南草津駅を中心に交通の社会実験も2回やっています。駅前の混雑を踏まえた中での社会実験でございましたけども、そういうことをしております。

このことを踏まえた中で、草津市は草津パーキングエリアと連携した活性化拠点の構想に取り組んでいるところです。

もう一つについては、今、新名神高速道路の延伸工事をやっています。そして、山手幹線も栗東までやっていますし、石山方面はその先に国道大津山科バイパス計画がありますが、1号バイパスができて、びわこ文化公園から先に動かないということのないようにしてもらいたい。南北には本当に多くの道路が整備されていくのに比べ、東西の整備がない状況です。特に草津については、平野南笠線です。

公園の整備がされても、公共交通にしても、道路整備ができないと、課題が解消できないという状況になっていますので、このことも踏まえた中で、いろいろ議論しながら、前進できる取組をしていただきたいと思います。

#### 【村上委員長】

いただいた御意見は、おそらく今後の検討にも関連することでもありますので、後ほどまた御発言をいただければと思います。

他にも協議事項の議題1番に関して何か御質問等ありますでしょうか？それでは議題2に移ります。今後の検討の進め方につきまして資料6の説明をお願いします。

## ② 議事(2)検討の進め方について

事務局より、資料に基づいて説明を行った。

### 【村上委員長】

第1回ということで、目標としてはこの将来ビジョンのこの改定に向けて、本日はぜひ皆様からその未来に向けての重要なキーワードを出していただく。これからの議論としては、先ほど御説明いただいた資料6と、資料1の2枚目のA3版、この将来ビジョンの概要の右半分、7番で、上から構図が示してある部分です。

三つの検討の視点、1番の「利用交流人口の増大」、2番の「立地施設機関の持つ機能の維持向上」、3番の「新しい価値の創造発信の促進」という、従来からこの三つの視点があって、五つの将来像が掲げられている、「人々の交流」と「文化芸術の創造」、「未来成長への挑戦」、「歴史と暮らしを紡ぐ」それから「生命と健康を支える」という五つの場としてのびわこ文化公園都市というのが従来の将来像です。

これを踏まえて、これまでの経過、皆さまが現場で感じておられる課題、それから未来に向けて、どんなことでも結構です。これを考えるべきというキーワード、この点はこれまでのビジョンには欠けていたといったことも含めて、ぜひ様々なキーワード、御意見をお出しただければと思います。

先ほどと同じ順番になりますが、時計回りということでしょうか？お1人ずつ、様々な御意見をいただければと思います。現場の中でお感じのことも含めて、御意見をよろしくお願いします。

### 【築地委員】

口火切りということで、責任重大のような気もしますが、キーワードという委員長のお言葉がありましたので、キーワード的にちょっと考えました。資料3でまず先にキーワードを申しますと、「将来世代への責任」が一つ目のキーワードです。

それから二つ目、キープレーズですが、行政的投資の大改革に向けた試金石。三つ目が作りっぱなしにしないということです、計画を作りっぱなしにしないということです。

一つ目に、五つの将来世代への責任ということについて、この資料3に滋賀県の政策の推移を挙げていて、滋賀県基本構想がありますが、「変わる滋賀、続く幸せ」というのが資料3の4ページですが、変わる滋賀、続く幸せというところの副題として、将来世代も含めた誰もが新しい豊かさを感じながら自分らしく生きるという言葉が書かれています。この将来世代への責任という問題が、現在のあらゆる学術にとっても非常に重要なコンセプトになってきていると思います。特に社会科学分野においては、将来世代に対してどのような責任を我々社会は負っているのかについての研究がようやく始まったところと言ってもいいかもしれません。そういうものを反映して、この基本構想の将来世代という言葉が書かれたと思います。

将来世代の責任に関して大事なことは、社会みんなで認識すること、その認識を共有すること、そしてもっと大事なのが、その将来世代への責任を果たすということだと思います。今生きている現役世代から見ると顔が見えない世代へということです。

私は、原子力・核問題について長く関わってきたのですが、基本的に10万年ぐらい先の世代に大きなツケを残すことがはっきりしている技術体系なわけです。そのことを認識してものを考える必要があると常々思っていますが、10万年ってちょっと長すぎますけど、子の世代、孫の世代、その次の世代ぐらい、100年ぐらいの未来の世代に対しては、責任を果たす必要があると思います。

そういう意味で、二つ目の行政的投資の試金石になるのではないかと、このびわこ文化公園都市に対する、あるいは周辺エリアに対する行政的な投資、それは物だけではなくて人に対する投資はものすごく重要だと思います。その試金石になる。その中で強調しておかなければならないのは、今分ったわけですが、いろんな政策が立てられて実行されているけれども、それぞれがリンクしていないということです。それぞれの投資が部分最適になっていて、全体最適が図られていない。

例えば、今度の滋賀アリーナができるに当たってのバス路線の整備の問題が、六、七年前から挙がっていますが、突破口が見出せていないというところに象徴的に表れていると思います。そういったことを実現して、横串を刺していくという意味の試金石になると思います。

【村上委員長】

三つ目のキーワードは何でしたか。

【築地委員】

作りっぱなしにしないこと、冒頭の岡井先生の御指摘になったことそのものです。

【村上委員長】

もうプラス3になりそうなキーワードをいただきましてありがとうございます。

将来世代への責任を果たす行政的投資の試金石になるということ、作りっぱなしにしない、進行管理もきっちり行うということ 키워ドとしていただきました。

【仲川委員】

私からお願いと、それからキーワードという形でお話をさせていただきたいと思います。

まずこういった事業をこれから進めるに当たって、やはり予算というものが必要になってくると思います。だから、予算が何も分らないのに、どういうアイデアを出したらいいのか。前へ進まない話なので、必ず予算というものをまず提示していただいて、その中でどういう形でやるのかを決めていくプロセスをオープンにさせていただきたいと思います。



それから、キーワードというほどでもないですが、横断的な繋がりが各施設にほとんどありません。これをどう繋げていくのかというところになるのですが、例えば、医療と健康を一つのテーマとする、それから輸送と交通、エネルギーと環境、それから文化とコミュニティ、こういった他にもあると思いますが、この四つのキーワードを掲げて、それをそれぞれあるいは一つずつ横断的な繋がりでこの文化ゾーンを活性化させるようにやっていただけたらなと思います。

それと、どうしてもやるときに失敗したらどうしようという思いが必ず生まれていきます。でも、これはやってみないと失敗するか、成功するか分かりませんので、もうとにかくトライアンドエラーを繰り返しやっていくことが必要です。そうなってくると、3回の会議でそんなトライアンドエラーが繰り返しできるのか、これはもう無理なことですので、ここにおられるメンバーだけでなくも構わないので、先ほど、年に2回と言われましたが、2回程度で本当にできるのかと。それが帳面消しで終わっているのではないか、ということにならないようにしていただきたい。

それから、地域からお願いしたいのは、やはり瀬田や草津にしても、冒頭に言いましたが、自治会離れが進んでいます。文化ゾーンを利用することによって、例えば自治会員が文化ゾーンを利用したらポイントが付くとか、割引があるとかというようなものもしていただくと、自治会離れに少しでも歯止めがかかるのではないかと。自治会に入っている人が文化公園に来たら500円になるとか、滋賀アリーナを利用したら100円安くなるとかポイントがもらえるとか、そういうことまで考えていただくと、地域としてはありがたいと思います。

#### 【村上委員長】

予算の裏づけが必要であることや、協議会の議論をもっと活発化するべきではないかというお話、施設の機能連携については、テーマに沿って連携をもっと強化すべきということで、御提示いただいたキーワードは、この五つの将来像それぞれにも当てはまるのかなと拝察しました。

最後の自治会離れの一つの抑止策とし、てこの文化公園都市の中の施設を利用すると、一定のポイントがもらえるというお話は、確か最近滋賀県はまちコインでしょうか、県としてデジタル通貨を発行している会社と確か県で初めて協定を結んだというのは、最近だと思しますので、こういったことも実装できるのではないかと、それを実験的にここでやれるのではないかとということも少し感じたところです。

#### 【平尾委員】

十分なお話ができるかどうかわかりませんが、今まで30年余りこの仕事に携わってきましたが、都市計画の部署にいたことがないので、そのあたりのことがわからなくて申し訳ないですが、私はこのそばに住んでいまして、2週間前でしたか、ちょうどリニューアルされた県立美術館で山本俊太さんの展覧会があったので、ギリギリの最後の週末に行きました。

まず、美術館が再オープンされたことを本当に嬉しく思いましたし、その中に入って、家族が大変多かったです。面白い椅子の配置をして、勝手に座れるようにとか、いろいろなゾーンが作られて、今までいろんな美術館回ってきましたけども、多分、館長さんであるとかいろんな先生方の方針でそういうものを作っていたのかと思いましたが、まず美術館に本当に親子連れがたくさんおられたということに、その時深く感動しました。

図書館もこの場所もありますし、埋文センターもありますし、その文化ということ言えば文化もある、まち歩きというか、そういうこともできるようなゾーンなのかなということをおもいます。このクラスターで文化のゾーンみたいのがあって、元々のイメージとしては、びわこ文化公園都市という文化と公園というイメージがあって、これだけの住宅のゾーンまで、そういう広い範囲でこのゾーンがあるということの認識自体がなかったのですが、その横の繋がりというか、有機的な結びつきがある、人がせっかくここに来て、いろいろ1日かけて午前はこちらのゾーン、昼からはこちらに行くということができるといいなと思います。

ただ、今これを俯瞰してみると、何かおそらくこの場所にエリアに来られた方は福祉のゾーンには行かないかな、どうしたらいいだろうというようなことを思ったりします。行かなくてもいいのかもしれませんが、せっかく将来のビジョンを描くのであれば、何かそういったことを仕掛けていくことができるとより人が集まりますし、賑わいもできるのではないかと、そのように感じました。

#### 【村上委員長】

特にゾーンごとに少し分かれすぎていて、なかなか相互の連携交流が乏しいのではないかな。ただ、それはこの文化公園都市そもそものポテンシャルを示すということもあって、特に文化ゾーンの美術館のリニューアル後の面白さ、そういったところを見れば、大変魅力があるという意味では、あの三つの視点で、新しい価値創造発信促進というのがあったのですが、それがまだ不十分ではないか、あるいはもう既に生まれている価値があって、それを改めて再発見することもキーワードではないかということをご提示いただきました。

#### 【松田委員】

耳の痛いお話とかもありまして、横串とか難しいところもありますが、先ほどの3年度の実組計画にあったように、それぞれは頑張っていて取り組んでいます、それが繋がっていないところは確かにあるのかなと。日ごろから、こういうところがあるから声かけてみようというような場がなかったのかもしれないので、そういう意味では相乗効果みたいなものを意識しながら取り組むことが、これから必要なのではないかと感じました。

先ほど子供連れの方が多かったというお話がありましたが、ここを利用したいっていう方は文化ゾーンだけではなくて福祉ゾーンももちろんそうですし、たくさんの方がここに期待している。ちょっと使ってみたいと思っている方はいらっしゃるのだなと思っていて、そこに期待できるような形でどういうことができるのかと思っています。

人口が減ってきている中で、例えば、路線バスですとか、鉄道をどう維持していくかというのは、生活者にとっても非常に重要なことでありまして、そのために交流人口、外からどのように招き入れるかということもございますので、維持のためにも、いろんな方に気軽に使っていただけるように、あるいはここがあるよということを知っていただくために、どういことができるのかをいくつかのポイントを並べながら、一緒に検討していければいいかなと思いました。

#### 【村上委員長】

貴重なキーワードをいただきました。

実は、美術館等をはじめ、いろいろと施設もリニューアルが進み、アリーナもできる予定で新たな施設等もできるということで、実は魅力のあるスポットはどんどん増えているので、本当はポテンシャルとしては高いはずということで。ただし、それをいかに使いこなすかという使いこなしをキーワードとしていただきました。先ほどの築地委員からの作りっぱなしにしないということと少し関連するかなと拝聴しました。

#### 【黒澤委員】

この御時勢のために、どうしても人と会えない、何かそういう中で、公園という屋外で人と会えるというか、気分を変えるというか、そういう観点からの屋外のニーズはかなり広がっていると思います。

屋内で行っていたものを「屋外でもできるのではないか」と屋内でなく屋外で行われるようになったり、屋外で行うと屋内より人がいるように感じたり、より多くの人開放感というか、そういうのを感じたのかなと思います。なぜリアルじゃなきゃいけないのか、そういうところを問われていることもあると思う。

びわこ文化公園都市と言っていますが、各施設が実際、繋がっているのか、集積しているその効果というか、それが今まさに求められているのかなと思います。先ほども言われていますが、施設は使い方から考えると、作りっぱなしではなく手を加えながらなるべくより良い状態にして次世代へ残していくとか、そういう観点も必要だと思います。この御時勢のために、どうしても人と会えない、何かそういう中で、公園という屋外で人と会えるというか、気分を変えるというか、そういう観点からの屋外のニーズはかなり広がっていると思います。

#### 【村上委員長】

新たにひとついただきました。リアルからバーチャルかあるいはリアルとバーチャルと両方というふうなお話で、コロナパンデミックを契機に、屋外に対する利用ニーズが高まり、今回そういうことでパーク PFI の話も前に進んでいるのかと思いますが、そういう新たに生まれた価値、時代背景を落とした新たな価値へ行く、あとはリアルワールド、バーチャルワールドというところを、どう考えるのか。これまでには全くなかった視点ということ です。

### 【岸本委員(代理)】

私どもも行政ということで、どちらかというともちづくりの話をさせていただきたいと思いますが、こちらは10年前に作られたビジョンということで、特に高いポテンシャルを生かしたということを最初におっしゃいました。

高いポテンシャルを生かしてのまちづくりということで、取組が進められてきました。先ほどの7番目のびわこ文化公園都市の将来像と方向性ということで、こちらの中の三つの視点、利用、交流人口の増大等、立地施設機能の持つ機能の維持向上、そして新しい価値の創造発信促進と、こちらについては10年たった今もなお必要と思っており、更に引き継いでいくべきものと思っています。

そうした中、草津市の取組ですが、市として特にびわこ文化公園都市を第6次草津市総合計画においても、また草津市都市計画マスタープランにおいても位置づけをはっきりさせていまして、そうした中でのまちづくりの取組を今進めています。

資料4でご紹介もいただきましたが、特に交通の取組を草津市は頑張っておりまして、名神高速道路の草津 PA と連携した拠点整備については、検討会を開催して進めており、今年度についてはこれまで県、そしてNEXCO西日本、学識経験者の方、また関係事業者の方、大津市にもオブザーバーとして入っていただいて、草津パーキングエリア周辺のポテンシャルを活かした形での整備をしていきたいということで、今年度、基本構想を作る予定をしています。こうした中で、交通というものが、このエリアでは特に大切であり、キーワードであると思っております。

今後のことですが、お話にもありましたとおり、草津市としては草津パーキングエリアと連携した拠点整備、また都市計画道路、平野南笠線も検討中ということで、資料も書いていただいています。また、大津山科間の国道1号バイパスの話も検討中と書いていますが、先ほど築地先生が、しっかりと行政の投資の話であるとか作りっぱなしにしないこととおっしゃいましたが、まずはこちらの新しいビジョンの中に、検討中ということでこうなっていますが、しっかりとビジョンに乗せていただき、前向きにまちづくりを進めていただきたいということで、草津市としてはしっかりとした掲載をお願いしたいと思っています。

また、ウェルビーイングであるとか、CO2ネットゼロのモデル地域としての先進的な取組もこちらのエリアで取り組みいただいていますし、そちらもしっかりと草津市も参画していますので、頑張ってくださいと思います。

### 【村上委員長】

既に現行の将来ビジョンをもとに、確実にこの交通ですとか、ウェルビーイング、CO2ネットゼロについては、最近の動きですが、特に交通については、従来からずっと長年の課題ということで、これは道路整備も含めて相当の時間がかかるものですので、10年でなすのはなかなか難しいというところもあります。

これまでのビジョンと、今回いただいた諸課題の中でも、やはり交通アクセスはまだまだというようなお話もありましたが、これからの将来ビジョンを改定するうえで、やはりそ

の交通体系の整備というのは、しっかりとビジョンの柱として明示すべきであるというご意見だと思えます。

まさにおっしゃるとおりですし、特にこの五つの将来像のどれをとっても、この人が動かないと、立ち行かなくなる。それを支える基盤として、やはり交通である、モビリティであるということです。大事なキーワードをいただきました。

#### 【清水委員】

私は、岸本副部長からも説明いただいたように、交通がメインだと思っています。特に大学、福祉ゾーン、医療ゾーン、そして文化ゾーンというようなものがずっと連結して並んでいます。ここを利用する人たちが本当に多くなりました。どの駐車場を見ても常に土日は満杯な状況でございます。西駐車場ですか、一番左の横、あそこは整備されてからすごく良くなりましたし、スポーツされる方、またウォーキングされる方、公園もそうです、そして埋蔵文化財センター等々も来られる方も多くなってまいりました。滋賀医大の方は特に病院関係、多くの方が来られています。また、福祉ゾーンをどうしていったらいいかという話もありますが、草津駅からのバスもありますので、そこも多くの方たちが御利用いただいているようです。

学生はコロナが始まり、そんな状況が長く続くことで対面授業ができなくなり、ぐっとバスの利用者も減ったような状況があります。

知事が言うように、マスクを付けてよし、はずしてよし、というような三方良しを用いた感染状況ですし、感染レベルも下がったので、食事もという状況になりました。

特にキーワードとして、私は集客、いわゆる人を集める、物を作って人が来なければ意味がない。そのために何をするかということを考えていきたい。特に交通というものも踏まえた中で、もう一つは、来てもらえる施設。今、コンビニとか、その食べ物を売っているところはどうでしょう。大学にコンビニはありますが、この施設内ではほとんどありません。ということは、弁当を持ってこなければいけない状況ですので、気軽にここに来て、ここでまた食事ができる、また買い物できるような、そういう施設も踏まえた中で、人が集まるというような文化ゾーンにしていきたい。そこを私は重要に思っています。そのためには何をするかということに関わってくると思えます。

交通のこと、草津市の総合計画にも挙がっているように、今、その取組をしっかりとやっていただいていますので、高速道路のバスターミナル、今、南草津駅にここで降りて、草津から降りて朝何本か高速バスが走っています、それをなくして、ここでバスタをつくることによって、今度は地域のローカルバスが、公共交通が操業するという状況にもなって、その人の流れができていくという、その政策の中で取組をしっかりとさせていただきますし、特に県の基本構想ですね、この中の四つ目の柱です。変わる滋賀、続く幸せということも踏まえた中で、この中に当てはまる形もしっかり考えていただきたいと思います。

### 【村上委員長】

私の勤務する大学でも、学生がキャンパスに戻ってくるようになり、周辺のコンビニでも、学生がアルバイトをようやく始めることができるようになりました。こういった状況が2年3年続きましたので、人が遠のいたという状況がありますが、これからは回復の傾向にあると思うので、そういうところでやはり賑わいの基本は人が集まることだということで、非常に重要なキーワードとして集客、人が集まるということをキーワードとしていただきました。

### 【岡井委員】

委員長から言われました三つの視点というところから考えたいと思いますが、まず一目的の利用交流人口の増大、二目的の立地施設機関の持つ機能の維持向上という観点からは、先ほども出ていますように、公共交通というのが非常に重要になっているのかなと。人が交流するためには、利用するためには必ず移動が伴いますので、いくら魅力的な施設を頑張って作っても、行けないから仕方がない。うちの大学生に、びわこ文化公園に行ったことありますかと聞くと、いや存在は知っているけど、移動する手段がないので行けないということです。行ってみたいとは思いますが、行けないので行かない、無理ですというような回答も返ってきたりして、そういうのは本当にもったいないと思います。アクセスがとにかく課題であるというのは、前回のビジョンからも言われていることだと思うのです。その一方で、週末は駐車場が満杯になる話を聞くと、駐車場を増やせばいいじゃないかと思う方もおられるかもしれませんが、そうではありません。さらに駐車場を作ってしまうと、平日はガラガラでもったいないということもあります。公共交通でしたら土日だけ増やそうというようなことが柔軟に対応できることから、やはり公共交通というのは大切なのかなと。

施設間の連携がないという話も、結局使うのは人なので、移動しないと使えないということで、その施設間の移動も視野に入れた、公共交通だけではなくもう少し柔軟な移動手段も併せて考えていく必要性もあるのかと。日本はすでに高齢社会になっており、草津市はまだまだで、全国的な中では遅い方ですが、20年後、50年後を見ると、高齢者は車に乗れないことを考えますと、当然公共交通の重要性は高まっていきます。今、近江鉄道と帝産バスがこの辺りを走っているということですが、系統や営業区域が違うのでというような、利用者の視点ではなく、バス会社の観点から無理だというそういう、大人の事情があるのかもしれませんが、本来の利用者はここからここに移動したいというようなことであり、多くの利用者のニーズを聞きながら公共交通というのは考えていかないといい。

草津市と大津市両方にまたがるエリアなのでできませんとなると、そこは広域行政である県が公共交通という枠組みを、もちろん直営でという話ではなく、何らかの対策、実際に利用者が利用できるようなものを作っていくのが県の役割であると思っています。

また、新しい価値の創造・発信の促進というのは、資料3で社会の動きをまとめてくださっていたと思いますが、人々の行動や考え方がますます多様になっているのは、もう間

違う事実だと思います。そうすると一つの施設に一つの機能ではなく、ここに行けばあれもこれもできるというような、多機能というのが求められている。都市計画的なことを言うと、昔は土地利用を純化して、ここは住宅地、ここは商業地、工業地と各々の機能に特化することが時代でしたが、それでは良くないということで、いろいろな用途のミックスを認めていくような流れにもなっています。それが一つずつの施設に対しても、最近と言えるのかなど。一つの施設だけれども、複数の機能がありますよと。場合によっては昼間と夜で使い方が違うとか、そういうことをしていくと、多様の目的を持った人が同じ施設に1か所に行くだけで用事が済む。特に人口が減少していく中で、この機能はここというように整備すると、財政的にも持たないし、利用者が減っていく。

人口が減少したら、この美術館の利用者も減るのは当たり前の話なので、それを増やすためにはやはり一つの施設の中で複数の機能を持たせていく多様な機能も一つのキーワードと言っていいのかわかりませんが、考えないといけない。その中でエリアの中心となるのがこのびわこ文化公園だと思います。公園として非常に整備されていて素敵な公園だなと思いますが、せっかくなので、その公園に住民の方にどんな機能が欲しいですかというニーズを聞きながら、その公園に様々な他の機能を付加していくようなことも検討してもいいのではないかと思います。パーク PFI を進めていることも言われていましたが、請け負う事業者さんが儲かる施設を考えるのではなく、住民の方が望むようなもの、こんな機能をつけてほしい、それに対して対応してくれる事業者を選んで、パーク PFI をやっていただく流れになるといいなというのが希望です。

#### 【村上委員長】

大変重要なキーワード、示唆に富むキーワードをいただきましたが、移動を支えるというか、大事なことは自由に動けるようになるということですね。

特に施設間とか、思ったところにスムーズにいける柔軟な移動のあり方、支えるシステムをキーワードとしていただきました。それから価値観の多様化、新しい価値の創造ということですが、これは多様化していて、ある特定の価値を高めればよいということではなく、単機能の施設を作ればよいということではなく、それぞれのこの文化公園都市にも様々な施設がありますが、その多様化を目指す必要があるのではないかと、ミックスあるいは様々な利用を創出する。新しい価値創造にプラスで、ゾーンで区切られているのをどうするかという話です。使いこなさないといけないという話も合わせて考えると、そういった新たに使える価値を見出すとか混ぜるとか、そういうこともキーワードとして挙げられると思いました。

#### 【村上委員長】

皆さんありがとうございます。

私からは、全国のモデル都市ですとか、まちづくりを俯瞰していく中で、最近上がってくるキーワードを二つ挙げたいと思います。

一つは Web 3というキーワードです。

これは、旧山古志村で実際に行われている事例として御紹介したいのですが、山古志村は鯉で有名ですが、その鯉をモチーフにした NFT アートを販売し、それを購入した方がデジタル村民になる権利を持てるということで、先ほど実は自治会のお話もありましたが、山古志村には800人しかいないのに対して、バーチャルの村民が800人以上いる。デジタル村民は800人以上いて、これで何が起きているかという NFT アートを購入したバーチャル村民の方は、山古志村を訪れたいと言ってやって来るそうです。で来て、何て言うのかという、「ただいま」っておっしゃるそうです。

地元の方もこの新しくこの村に来られる方と一緒に、いろんなことをされている。盛り上がりを見せているという意味では、こういった次世代のこの情報の流通のあり方も含めでの Web 3というキーワードではないかということで、先ほどキーワードとしていただいた進行管理がないという話とか、一体どこで誰がどこで何をやっているのか、このびわこ文化都市公園都市で何が起きているのかがわからない、こういったことがわかるようにするプラットフォーム、私もホームページを調べたのですが、それも見当たらないということで、常にそれぞれの施設で何をどうやっているのか、ここへ行きたい、そこに行くにはどうして行ったらいいのかというのが一目でわかる、何かそういう基盤というか、プラットフォームを作って、その Web 3の世代、将来世代に応えられるようなことはどうだろうかというのが、一つ思い浮かびました。

実は、将来世代の責任という話では、例えば小学生でもアートを販売したり、会議に参加したりしているようですので、むしろそういった将来世代が積極的にまちづくりに参加できるようになるのがこのWeb3ではないかと思っています。

もう一つ、自由に動けるといその移動モビリティについては、よくまちづくりで取り上げられるのがMaaSです。マースと読むのですが、Mobility as a Service です。単に自動運転化、車を運転しなくていいということにとどまらずに、自動運転車両に様々なサービスを載せて、移動しながらでもサービスを楽しむことができる。端末さえあれば自由に移動するのはもちろん、移動中もいろんなことができるというのが、既に実装されている。某大手自動車メーカーは富士山の麓でモデル実験都市を建設しています。

びわこ文化公園都市のようなところでは、こういうモデル事業も可能ではないかと思いましたが、先ほど築地委員がおっしゃった、行政的投資の試金石として、覚悟はあるかと思いますが、こういったことも事業として挙げられることで、二つ新たにキーワードとして加えていただければと思います。

皆様何か他に、付け加え、これはということがありましたら、お願いします。

#### 【清水委員】

ちょっと言い忘れましたが、この写真見てもらったらわかるように、この場所は琵琶湖が望めます。本当に良い景観の場所です。ここに来ていただきたい、これも一つの売りに入れていただきたいと思います。



### 【村上委員長】

そこを会議の冒頭に言わなかったのは、申し訳ありませんでした。補足いただきましてありがとうございます。

### 【築地委員】

二つありまして、一つは今清水委員から出た話ですけれども、ここで書かれている狭い意味のびわこ文化公園エリアではなく、もっと広いエリアで見る、特にそれは岡井委員もおっしゃった、住民主導ということに直結するわけですが、今ここに来られている住民の代表の皆さんを当然含めつつ、このエリアをもう少し広く見て、住民のニーズというものに応えるような公園作りをしていく、こういうエリア作りをしていく必要がある。エリアの再定義が必要だと思います。

もう一つは、ここに現れてこない、他の政策との連動も重要であろうと。具体的には文科省の大学政策が今大きく動きつつあって、委員長がおっしゃったデジタル村民のようなものと実はリンクするのですが、デジタル学生みたいな形です。いろんな人がいろんな形で大学において学べる、あるいは大学自体がキャンパスからどんどん飛び出して行って、いろんなタイプの学生と繋がっていくことができるようになってきています。文科省の直近の政策変更で言いますと、完全オンラインで受講できる単位数の上限を撤廃するという方針を打ち出したというのがありますけれども、そういった部分を見据えつつ、このエリア全体がキャンパスになるような、あるいは18歳人口だけに乗っかっている大学経営でない、そういう教育、学びのビジョンを組み入れていけたらいいのかなと思います。

### 【村上委員長】

バーチャル大学といいますか、人生ずっと学びということで、常に学べる場所がここにあるということ貴重なキーワードをいただきました。

他に何か追加されることはありますでしょうか？

今日は初回ということで、この三つの視点、五つの将来像を変えるべきか、変えないのか、皆様からたくさんの視点をいただきましたので、視点の部分はこの三つに収まりませんので、今日いただいた意見をまとめる必要があると思います。

さらに、先ほどの岡井委員の御指摘がありました、これまでできたこと、できなかったことをまとめていただくという宿題もありますので、まとめた結果を踏まえて、次回、この五つの将来像、それから取組について具体的に変わるべきところ、あるいはここを強化すべきところ、こういう方法を変えようといったところを2回目で議論いただくために、資料の準備をいただくということで今日のところはよろしいでしょうか？

それでは、本日の議題は終わりましたので、事務局に進行をお返しいたします。

### (3)閉会

次回は、今回の総括、10年間の振り返り資料を作成し、そこから議論する。

第2回委員会については、8月下旬から9月上旬の予定、後日日程調整を行う。